

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

## 事業名 家畜人工授精師養成講習会開催費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫指導係 電話番号：058-272-1111(内4160)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 660 千円 (前年度予算額： 450 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	450	0	0	450	0	0	0	0	0
要求額	660	0	0	660	0	0	0	0	0
決定額	660	0	0	660	0	0	0	0	0

## 2 要 求 内 容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

家畜人工授精師になるには、家畜改良増殖法第16条の規定により都道府県知事の免許を受ける必要があり、免許は都道府県が開催する講習会の課程を修了して、その修業試験に合格した者でなければ与えられない。

岐阜県における家畜人工授精師養成講習会は、これまで隔年で開催(前回R5年度)しており、毎回30名程度が受講し、合格している。

次回開催予定の令和9年度には全国和牛能力共進会北海道大会が同時期に開催されるため、本講習会の開催が困難であり、農業大学校をはじめ県内関係機関からは、令和8年度の開催希望が出されている。

## (2) 事業内容

家畜繁殖に必要不可欠な技術を持つ家畜人工授精師を計画的に養成し、適正な配置を図るため、家畜改良増殖法第16条に基づき、牛の家畜人工授精師養成講習会を開催する。

(令和8年度開催予定)

- ・開催場所 岐阜県農業大学校、岐阜県畜産研究所等
- ・受講人員 30人程度
- ・開催期間 約30日間(7月下旬～8月中旬)

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担なし（受講者からの手数料収入を充当）

(4) 類似事業の有無

無（県内で家畜人工授精師免許を取得するには本講習の受講が必要）

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	132	
需用費	498	
役務費	30	
合計	660	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「ぎふ農業活性化基本計画」（R8～12）（仮称・令和8年3月策定予定）
  - 基本方針4 安心できる農畜水産業と農村の環境整備
  - 4 生産を脅かすリスクへの対応
    - ①家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

(2) 国・他県の状況

- ・他県においても同様の講習会を開催している。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

家畜繁殖に必要不可欠な技術を持つ家畜人工授精師を計画的に養成し、適正な配置を図るため、家畜改良増殖法第16条に基づき、家畜人工授精師養成講習会を2年に1回開催する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 実績	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①家畜人工授精師養成講習会受講者数		0	24	30		80%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容と成果を記載してください。 隔年開催のため、R4年度は開催なし</li> </ul>
指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %	
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容と成果を記載してください。 (開催概要) 場所：岐阜県農業大学校、岐阜県畜産研究所、飛騨牧場、東濃牧場 期間：令和5年7月26日～8月25日 受講人数：26人</li> </ul>
指標① 目標：30 実績：26 達成率：87 %	
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容と成果を記載してください。 隔年開催のため、R4年度は開催なし</li> </ul>
指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %	

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>県内で家畜人工授精師の免許を取得するには、本事業による家畜人工授精師養成講習会の課程を修了し、合格する必要がある。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>家畜人工授精師養成講習会を過去10年で5回開催し、152名が受講、うち148名が合格。その後、家畜人工授精師免許を取得し、家畜人工授精業務を行っている。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 1	<p>畜産研究所及び家畜保健衛生所職員が講習会の講師を担当しており、関係機関が連携して事業を実施している。</p>

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 現場技術者が高齢化してきており、技術の継承が不可欠</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 家畜人工授精師の確保のためには一定間隔での家畜人工授精師養成講習会を開催することが必要。毎回、20名から40名程度の申込みがあり、県民ニーズも踏まえ、継続が必要である。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	【〇〇課】